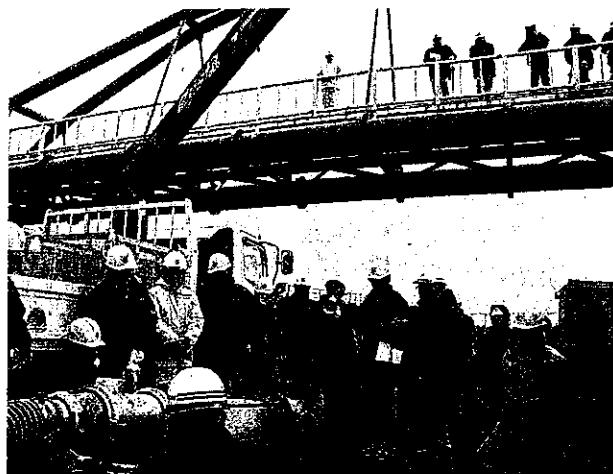




山岸副主査

新潟市水道局は、阿賀野川浄水場から阿賀野川に至る放流管を「アイスピグ管内洗浄工法」で洗浄した。アイスピグ研究会員の五十嵐建設工業が施工を担当し、同局では初めて同工法を採用することから研修会が開催され、職員約40人が参加した。当該管路は、マンガンなどの付着による流量の低下が生じており、流量回復が課題となつて



初採用のアイスピグでφ300の放流管を洗浄した

新潟市水道局は、阿賀野川浄水場内の放流池に入った雨水などを阿賀野川に放流している。堤防上の車道や河川敷を横断する部分は水管橋となるおり、取水塔までの高差が約10mある。昭和47年に布設し、平成13年に他工法で洗浄したが、再び流量の低下が見られた。当該管路は、アイスピグ管内洗浄工法の採用となり、運用中の放流管であり、配管が詰まる心配もなく、短時間でかつ確実な施工が求められることから、アイスピグ管内洗浄工法の採用に至った。

アイスピグ管内洗浄工法は、圧力管路を洗浄する特許工法で、水と塩から成る特殊アイスピグペット(SIS)を管内に注入し、堆積する夾雜物をシャーベット内に包み込み管外に排出する。過去には、奈良県五條市でφ150、延長約1320m、高低差約230mの送水管(アラミド外装ボリエチレン管、一部ダクトタイル鉄管、ナイロンコーティング管)に蓄積した大量のマンガンを除去し、流量を回復し実績があり、リフト部や伏せ越し部、曲がりの管に堆積した汚れのある管に得意としている。

洗浄に用いたSISは、専用のデリバリーユニット車(2・2×4台)で搬入し、浄水場内の既設配管を注入口、阿賀野川取水塔内の空気弁の設置位置を立てる。洗浄後のテレビカメラ調査画像や流量の比較から、高い効果が確認された。洗浄に立ち会った山岸和貴・技術部浄水課阿賀野川浄水場副主査は、「アイスピグ工法は、前回行った工法より取水塔近傍までの管路が洗浄され、放流流量の回復も確認できたので、期待通りの結果が得られた」と評価した。

阿賀野川浄水場の放流管をアイスピグ洗浄

新潟市水道局

いた。洗浄前後の流量を比較した結果、約4割の回復が見られ、高い洗浄効果が得られた。

対象の管路は、φ300、延長497mのダク

管である。タイル鉄管で、阿賀野川浄水場内の放流池に流入した雨水などを阿賀野川に放流している。堤防上の車道や河川敷を横断する部分は水管橋となるおり、取水塔までの高差が約10mある。昭和47年に布設し、平成13年に他工法で洗浄したが、再び流量の低下が見られた。当該管路は、アイスピグ管内洗浄工法の採用となり、運用中の放流管であり、配管が詰まる心配もなく、短時間でかつ確実な施工が求められることから、アイスピグ管内洗浄工法の採用に至った。

アイスピグ管内洗浄工法は、圧力管路を洗浄する特許工法で、水と塩から成る特殊アイスピグペット(SIS)を管内に注入し、堆積する夾雜物をシャーベット内に包み込み管外に排出する。過去には、奈良県五條市でφ150、延長約1320m、高低差約230mの送水管(アラミド外

マンガン除去で流量が4割回復

み込み管外に排出する。洗浄に立ち会った職員は、SISの注入後、浄水場から徒歩で河川敷に過去には、奈良県五條市でφ150、延長約1320m、高低差約230mの送水管(アラミド外

クリル管内に水しぶきが起き、無色から次第に色が変わり、最後は黒い濃い茶色になった。SISの注入から回収までの時間は約50分だった。